

坂東眞理子さんのご講演を聞いて話し合う会 ～「アンコンシャス・バイアス (無意識の偏見) を超えて」

講演日時： 2021年6月26日(土) 13:30～15:30 オンラインと会場(県女性センター)の併用開催

講師：坂東眞理子さん 昭和女子大学理事長・総長、初代内閣府男女共同参画室長
著書に『女性の品格』『70歳のたしなみ』『幸せの作法』等

学習会：講演後にZoomの当会のURLに変更して開催。

15:30～16:00 例会 16:00～17:00 学習会 参加者：会員8名(オンラインで参加)

新潟県女性財団主催「^{ひと}女と^{ひと}男フェスティバル2021」基調講演会に参加して、会員同志の意見交換を実施しました。講師の坂東眞理子さんは、国家公務員として国の男女共同参画政策に直接関わり、その後に女子大学の総長として女子学生の教育にも携わりました。男性主流の日本社会の中で、ご自身のキャリアを全うしてこられたロールモデルともいえます。我が国の男女共同参画関連の制度はだいぶ進化してきたとは思いますが、それに必ずしも意識が伴っていないと感じている人は少なくありません。「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」が昨今注目されている背景にはそれがあると思います。今回のご講演は、意識の視点から日本社会の男女の関係に言及され、ご自身の体験談も興味深く、示唆に富んだお話でした。

1 講演概略

「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」は、森喜朗元総理の「女性の会議は時間がかかる、云々。」の発言で今年の2月に広く知られることになった。社会的地位の高い男性の偏見はもちろん問題だが、女性自身もそれに気づくことが大切。「私は女性だから何を言ってもだめなんじゃないか？」とあきらめて、自分で自分をおとしめていることがある。それをなくしていこうではないか。

<コロナ禍での社会変化> 2020年2月に学校行事を中止して以来デジタル化がすすみ、オンラインをせざるをえなくなった。在宅勤務も増え、男女間でも性別役割分担が明確になった。従来は「セブンイレブン・ハズバンド」といって、夫は昼間は家にいなかった。それが急に在宅になり、コロナ離婚もあった。働くことと生活することをあらためて考えざるをえなくなった。夫は外で稼ぎ、妻は家で家事、育児、介護をしてきたが、それを見直すことが必要になった。オンラインは今後当たり前になるだろうから、これは一時的なものとはいえない。

少子高齢化も加速している。高齢者の死亡率が減って出生数は減少。今年の出生数は80万人を割り込むのではないか。これを前提とした社会を構築しなければならない。アンコンシャス・バイアスをもっていると社会がうまくいかなくなる。デジタル業は好調だが人が移動する業種やサービス業は低迷している。対人サービスの社員は女性に多いので、コロナ不況では女性にしわ寄せがきている。

<社会の中のアンコンシャス・バイアス> 2003年、内閣府男女共同参画室長だったころ、「2020年までにあらゆる分野の意思決定層の30%を女性に」と閣議決定した。当時、上野千鶴子さんなどは、「それではなまぬるい。」と言ったが、2020年になっても職場の女性管理職14.8%、衆議院議員9.9%、弁護士・裁判官等25%、医者3割、国家公務員4割。全体としてはまだまだである。ジェンダー指数は、156か国中120位。なぜ？それは、男性にアンコンシャス・バイアスがあるから。経済界では、「女性に活躍をうながしても女性本人たちが消極的。」と言われる。家庭内の仕事との両立ができない。「女性は昇進したがるもの。」「女性は家庭を最優先するもの。」という決めつけが多いようだ。「女性はまじめで成績が良いから採用率が高くなるが、男性の方が後でのびるから」と、男性の成績にげたをはかせて、男女の採用の比率を調整するなどはもってのほかだ。

<女性自身のアンコンシャス・バイアス> 女性自身がアンコンシャス・バイアスに囚われている。「責任のある地位に就くと風当たりが強いし、両立しにくいから就かないほうがいい。女性には大変なんだよ。」とすりこまれている。これを解放することが必要。「子育ては自分ががんばらなくちゃ。」と思っている人がたくさんいる。働くにしても「子どもや夫に迷惑をかけてはいけない。」「自分の社会活動を夫がきつと嫌がるのではないか。」「普通の女性には仕事は無理。」と思いつまんでいる。個人が変わらなければならない、と思う。自分の考えは思い込みじゃないか、と思うこと。すべての女性がすべての男性に劣っているわけではなく個人差がある。

<生涯学習の大切さ> 自分を大事にして可能性を育て、社会や周囲の人たちを助ける力を持つ。その最初のステップがアンコンシャス・バイアスをなくすことではないか。自分なりの得意なことをのぼしていく。社会のデジタル化、少子高齢化などの変化に対応し、女性も十分に働ける社会を作る。個々人が社会人になってからも勉強、努力する必要がある。日本では大学へ入学すると勉強しなくなり、社会へでてから会社で学ぶが、今は会社の余力がなくなってきたので、個人で勉強してブラッシュアップしなければいけない。それがグローバル・スタンダードでもある。女性達も新しい分野で働くスキルを身に付けてほしい。

<外国の例> フィンランド、アイスランドではなぜジェンダーギャップ指数が高いのか？1960年代までは日本と同じように女性は家庭内で働いていた。なぜ変わったのか？（以下はフィンランド・センターの資料より）

- ・勇気（自分にはとてもできないという思いこみを捨てる）
- ・成功しているロールモデルが近くにいる。 ・共感（困っている人に共感し、支援する。）
- ・父親のサポート ・女性自身の決意 ・生涯教育 ・協力
- ・女性達のネットワークを広げた（ソフトネットワーク：外の世界の人との繋がり）。
- ・救援力・援助力（困っている時に助けを求める、求められたら助ける、自己責任ではない。）

<女性リーダーに> ・これからの女性リーダーには3Sが必要、
Sympathy（共感）、Share（分かち合い）、Support（支援）

- ・カリスマ性があり「俺についてこい。」という男性タイプではない。
- ・「女性はリーダーにはなれない。」「余計な事はしないほうがいい。」というアンコンシャス・バイアスを捨てる事。



<フロアとの質疑応答（抜粋）>

Q1: 3Sが必要といっても基本はコミュニケーションではないか。それをうまくとるためには？

A1: 男性達は、女性の思いを考慮することが少ないようだ。セクハラ等もしかり。高齢者の言うことに耳をかさない若者等も。はっきりと断るときのスキルが必要。力のある人は、弱い立場の人を思いやることはほとんどない。弱い立場の人が思いを伝えるスキル「アサーティブ・トレーニング」が有効である。

Q2: フィンランドの改革の中の「父親のサポート」に関して、父親の意識改革はどのようなものだったか？

A2: リベラルな父親。思い込みに囚われていないこと。相手の立場を認めるような人。

Q3: 女子大学生の中に「将来、総理大臣になりたい」と言った学生はいたか？

A3: それはいなかった。しかし、最近は仕事と生活を両立させたい女子学生は増えたと思う。

Q4: 「女性活躍のためのメッセージを」

A4: 3つの「き」を実践すること～「期待する」「鍛える」「機会を与える」

その人が何を期待されているか、あなたのどこに期待している、とわかるように具体的な言葉かけをする。

2 学習会 講演後の意見交換

ファシリテーター：高橋令子

講演の内容についての話し合いをオンラインで実施しました。オンラインのリテラシーを習得できれば、より実りあるものになると思います。「ブレイクアウトルーム（少人数に分かれての話し合い）」やアンケートにもなる「投票機能」を利用しました。あらかじめ話し合いの議題を2点に絞って講演を聞いていただきましたので、内容の進行は割合スムーズに時間内に終了しました。オンラインのスキルは、参加者、ホスト役共にまだ修行が必要ですが、皆さんの思いを共有して有意義な時間でした。「アンコンシャス・バイアス」という言葉を今回初めて聞いた会員は半数もいて、良い学習と気づきになりました。今回学んだことや疑問に思った点を、これからの学習につなげていけたらよいと思っています。

① 講演内容で印象に残ったこと・・・Zoomのチャットに記入してから全員で意見交換

- ・「アンコンシャス・バイアスがあるからと諦めるのではなく、自分自身がそれから解放されなければならない。」という言葉。夫婦喧嘩の時にもそれを感じることもある。
- ・いつも常識と思っていたことを考え直して、それを言葉にすることが大切だと思った。
- ・パワーのある方は困難な時でも前向きでスゴイ。アンコンシャス・バイアスは性差だけではないと気づいた。社会のしくみの限界や、聞く耳を持たない人への対処は現実的で実践の参考になる。
- ・人と人との関わりが大切、特に女性リーダーに必要な3つのS（Sympathy, Share, Support）について。勇気が必要ということ（自分にはとてもできないという思いこみを捨てる）。女性のソフトネットワーク。
- ・官庁でお仕事された方だけに現場主義・現実主義だと思った。
- ・質疑応答の中で、女性活躍への3つの「き」の話（期待する、鍛える、機会を与える）には感心した。
- ・アサーティブ・トレーニング（弱い立場からの主張のしかた）が大事だと思った。
- ・女子学生の将来への希望については、主婦でパートの女性像があって残念に思ったことがあり、共感した。

② 講演内容で疑問に思ったこと・・・Zoomのブレイクアウトルームで3グループで話し合ってから発表

- ・両親が仕事を持った時や、辞めて家庭に入った時に子ども達はどう思うか？
- ・フィンランドでの「父親からのサポート」とは具体的にはどういうことか？母親はどうなのか？
- ・父親からのサポートを得るにはどうしたらよいか、社会はそのためにな何をすればよいか？
- ・グローバル・スタンダードでの大学での学びでバイアスをなくするには何が必要だろうか？
- ・坂東さんは、アンコンシャス・バイアスの中を生き抜いてこられた方。これからの女性達は、それを乗り越えていかなければならないのでは。

③ 参加者の終了後のアンケート結果 Zoomの「投票機能」を使用（参加者8名）

- 1 講演会の感想は？ ①大変良かった 5人 ②良かった 3人
- 2 「アンコンシャス・バイアス」を知っていましたか？ ①前から知っていた 4人 ②初めて知った 4人
- 3 「アンコンシャス・バイアス」について伺います。 ①興味深い 6人 ②多少関心がある 2人
- 4 ジェンダー関連で更に学習したいことは？（一択） ①ジェンダー概論 0人
②アンコンシャス・バイアス等の意識関連 5人
③女性活躍推進、夫婦別姓等の制度関連 3人